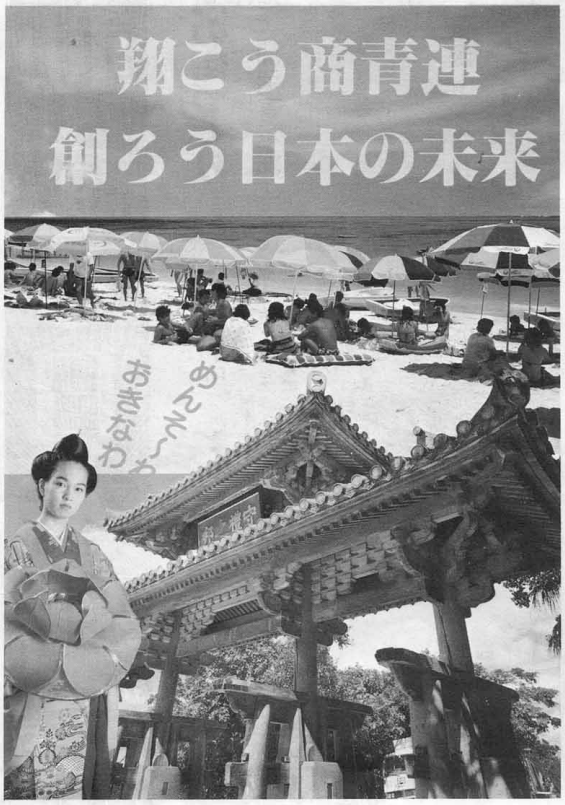
発行　全国商工会議所青年部連合会
東京都千代田区丸の内3－2－2
日本商工会議所中小企業振興部内
☎03－283－7847
編集　広報委員会
題字　日本商工会議所 会頭 五島 昇

翔生（しょうせい）

昭和62年（1987年）
10月2日号
通巻 第3号
（年2回 3月・10月発行）



めんそーれ沖縄へ

青年部全国大会 11月7日、沖縄で

前橋の地で産声をあげて誕生した全国商工会議所青年部連合会も、ことしは七歳の年齢を迎えることになります。前橋から始まり高岡、大分、水戸、福井、福島、そして次の沖縄。また、ブロック別では北海道、東北、北陸信越、関東、東海、近畿、中国、四国、九州という具合に大別されるようになりました。

さあ、ことしの全国大会は沖縄です。沖縄県商工会議所青年部連合会では、過去の全国大会及びブロック大会の実績の上に立って、大会をさらによりよいものへと創り上げていきたいと考えています。ことしは沖縄が本土復帰を成し遂げて十五年目、さらに国体が全国を一巡して最後に沖縄で開かれる意義深い年です。全国の同志の皆さん、来る十一月七日の全国大会には「メンソ～レ、ウチナー」（沖縄へお越し下さい）。

沖縄県連では、十一月の全国大会成功を期して、今年度の商青連のスローガン「翔け商青連、創ろう日本の未来」に則り、実行委員会を組織、総務、広報、登録、式典、懇親、宿泊交通の六部会を設置して準備を進めています。

大会の特徴は、今回初めての試みである同業種交流会を企画、情報交換して互いの発展に活かしたいと考えます。

また、パネルディスカッションも企画しており、基調講演には、通産省工業技術院技術審議官の仲井真弘多氏、コーディネーターには帝協大学文学部助教授の橋本晃和氏、パネラーには、駐日アメリカ大使館ブルース・イー・カーター経済通商担当官、駐日英国大使館アンソニー・ミリントン政治担当参事官、国立琉球大学法文学部助教授の嘉数啓氏、日本貿易振興会機械技術部計画課長の西田宗亘氏を招いて「世界経済の中で日本の果たす役割」をテーマに、それぞれの立場から意見を述べていただきます。

また、記念講演は、氏家康二氏が「いま、次代青年経済人に求められるビジョン」という題で講演されます。

大会終了後は、トロピカルな沖縄の夜の演出を準備しています。沖縄の十一月は、気温二十七度前後で、一年を通して最も過ごしやすい季節です。ハイビスカスの花のような真っ赤な、熱き心で皆様をお待ちしています。

南国沖縄からのメッセージ

沖縄大会会長　石川 正一

「翔こう商青連、創ろう日本の未来」をスローガンに、全国の若き経済人が沖縄県にご参集いただき、昭和六十二年度の全国大会を開催することが出来ますことは、この上ない光栄に存じ、心から歓迎申し上げたいと思います。

さて、昨今の経済情勢は、高度情報化社会や国際社会の到来によって、円高・失業問題等の大きな社会環境の変化をもたらし、低成長時代と国際化の進展を浮き彫りにし、各地では地場産業の育成や新たな特産品で地域の特色を生かし、地域経済の自立化をめざそうと積極的な推進策も図られています。

私達は、このような厳しい時代の青年経済人としての社会的な使命を、強く認識し、時代の転換期を乗り越える大きな原動力となり、それぞれの地域の活性化を促進しなければなりません。

全国大会は、青年部の会員が日頃の企業活動や地域経済活動の成果を発表し、次代経営者としての自覚のもとに、自らの研鑽と会員相互の親睦を計ることを目的に開催され、日本の未来を創るにふさわしい集いであります。

私達は、全国の各県からご参集される皆様を、心からご歓迎申し上げ、緑り葉の南国で情緒あふれる沖縄の「青い海、青い空」の大自然を満喫していただくとともに、若人の友情も大自然に劣らぬ潔さを持っていることを、肌で体験してもらう沖縄大会にするため、全会員が大同団結して、全国大会の準備を進め、皆様を心よりお待ちしております。

めんそーれ沖縄へ。

大きな成果 おみやげに

アメリカ・カナダ研修視察団

商青連のアメリカ・カナダ研修視察団二行（古川伸二団長・団員五十八名）は、六月四日成田を出発、サンフランシスコーナイアガラ－ニューヨーク－ワシントン－ラスベガス－ロスアンゼルスのコースで十二日間の研修視察を行い、同月十四日帰国した。

この研修視察では、アメリカの企業視察（六社）やショッピングセンターの見学（三店）、さらにニューヨーク商工会議所並びにジェトロセミナーなどを行った。

これらスケジュールの合間をぬって、サンフランシスコの市内見学やナイアガラ滝の見学、またニューヨークの市内見学、ワシントンでのホワイトハウスや国会議事堂の見学など、団員一同はアメリカ・カナダの旅を満喫した。

全国商工会議所青年部連合会（商青連）
一九八七年度 主たる事業及び事業経過

今年度商青連の事業も、順調に進んでおり、全役員、事務局も大変忙しい中にも充実した日々を送っているところです。

今年度より商青連は、より役割分担の明確化が進み、事業そのものは、今年度より新しく設置された委員会単位で進める方向が、より強くなってまいりました。

組織の拡充、強化については、昭和六十二年二月時には、四八五商工会議所の内、二七二会議所に青年部が設置され（設置率五六・一％）、その内一八三の商工会議所の青年部が商青連に加入されておりましたが、昭和六十二年八月時には、四八八商工会議所の内、二八四会議所に青年部が設置され（設置率五八・二％）その内二〇一の商工会議所の青年部が商青連に加入され、単会加入会議所青年部が始めて二百の大台を越え、ますます組織の拡充強化が図られています。

県連の結成についても各地県連の結成、あるいは結成の機運が相ついでおり、組織の拡充強化が図られてきています。

また、研修研究活動においては、六月四日より十二日間総勢六十名により、アメリカ・カナダの研修視察（一面掲載）を実施したのを始め、異業種及び地域間交流を図る目的にのっとり、十一月、沖縄において行なわれる全国大会にて、その交流の場づくりの企画を大きく進めている所であります。

広報活動においては、機関紙『翔生』の発行はもとより、日本商工会議所発行の『石垣』への原稿の投稿や、青年部広報担当者研修会等盛り沢山の事業を委員会メンバー一同張り切って実行しております。

総務委員会においては、その時々に総務として関係のある事項を委員会議題として討議し、その結論を役員会議題に上程するという方法をとっており、そうした中より、青年部単会名及び役員の呼称については、各地商工会議所青年部設立経過の相違を十分に配慮しつつ、将来的には「〇〇商工会議所青年部」、役職名は「会長、副会長、理事、監事」という呼称に統一して行くべき意見にて役員会での決定を見ました。

商青連主催の本年度各地ブロック別運営研究会は、五月二十四日九州ブロック（日向市）を皮切りに、十分な準備のもと、順次開催されて行く予定になっており、第七回全国大会沖縄大会は十一月七日（土）、沖縄市において盛大に開催されるべきその内容もすべて承認されている所であります。

また、八月の役員会において、第九回全国大会の開催地は四国ブロック・高知商工会議所青年部の主管にて開催されることが、役員会全会一致にて決定されました。

以上のように、一九八七年度全国商工会議所青年部連合会各事業は、古川伸二会長を中心に、日本商工会議所の強力なバックアップを得て、スムーズな進行の中に実り多くの成果を修めております。

躍動する日本列島青年部

ふるさと浦河の街づくり

北海道・浦河青年部

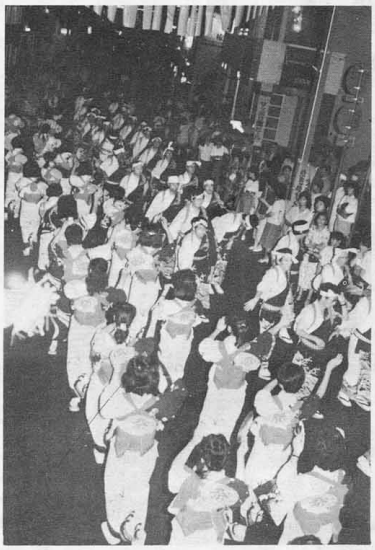
浦河町は、雄大な日高山脈を背にして、広大な太平洋に面し札幌から車で三時間半、えりも岬の五十キロ手前に位置し、北海道では松前地方に次いで古くから開拓された町です。基幹産業は水産業と日本一のサラブレットの生産。四百もの牧場があり、五冠馬シンザン、四冠馬ミスターシービーなどの駿馬を数多く送り出しています。

青年部は、四十三年に設立され、来年二十周年を迎えます。現在会員数は七十四名で六委員会、さらに地区別に九つの班組織を作り、事業は各委員会で、親睦・連絡は各班で対応し、組織の活性化を図っています。

メインテーマは「ふるさと浦河の街づくり」。主な事業として商工会議所の各種イベントに積極的に参加、また独自のイベントとして、サマーフェスティバルを毎年開催、さらに町民が家族単位で参加できるようにと、森林浴とオリエンテーリングを合体させた「アキアジ鍋ラリー」を計画しています。

現在の最重点事業は、国道問題を契機として商店街の近代化を図って行こうと「商店街近代化への提案」という啓蒙書（九十九頁）を作成し、商店街、町行政に提案し、さらに本年度は、その具体的なマスタープラン作成に取り組んでいます。メンバーだけの勉強以外に、他団体との意見交換も深めながら、推進して行きたいと考えています。

（会長　奥田　利明）



北海道・浦河市ではまちのイベントに青年部の活躍が大きい

青函トンネル開通博覧会に大イベントを企画

東北・青森青年部

当青年部は、昨年七月に設立されてからちょうど一年たちました。この間、月に一度の例会を開催し、さまざまな分野の方々をゲストに招き、本市経済の活性化について勉強しています。

例会は、当青年部に六委員会と二特別委員会（総務広報・部員交流・企画情報・地域開発・経営研究・政策・青函博イベント・青森冬まつり）があり、各委員会が企画し、開催しています。

この中で「青森市の未来を探るパートI」と題して、青森市の企画財政部長を招き、当市の財政事情、今後の取り組むべき課題等について、活発な意見交換を行いました。

また、パートIIとして、市会議員八名が参加し、青森市の街づくりについて、市会議員として果たすべき役割と抱負を語ってもらいました。会場はさながら選挙の個人演説会のような熱気に包まれ、大きな盛り上がりをみせました。

主な事業としては、ニューメディア先進地視察会として札幌市のテクノパークの視察研修の実施、各地冬まつりの視察研修を行い、報告書を作成しています。

また、来年開催される青函トンネル開通記念博覧会（青森EXPO88）に、当青年部が主管し、県内青年団体が大同団結、大イベントを企画しています。

（広報委員長　赤田　憲裕）

青森青年部では、市議会議員をゲストに招いての例会「青森市の未来を探るパートII」を催した

中山晋平生誕の地で

北陸信越・中野商工青年会議

長野県中野市は、作曲家中山晋平の出身地であり、ことしは生誕百年にあたり、さまざまな記念行事が実施されています。

中山晋平は明治後期から大正・昭和にかけて、時代のうたを作り続け、その作曲数は三千余曲といわれています。「砂山」「シャボン玉」に代表される童謡、そして「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」「波浮の港」など流行歌の原点となり、また、地元「中野小唄」や「東京音頭」など地方民謡の発祥となり、現代歌謡の礎を築きました。

七月二十五日には永年の懸案でありました偉大な業績を顕彰し、末永く継承していくための中山晋平記念館を開館し、金田一春彦先生の「晋平さんの歌と心を語る」という講演とともに、盛大に生誕百年記念式典を行い、翌二十六日には「語り継ごう晋平のうたと心」と「第一回晋平まつり」を川田正子、ダ・カーポを招いて実施しました。

我々中野商工青年会議も、これら記念事業の実行委員の一員として参画していますが来る十一月二・三日は、晋平生誕百年にちなみ、当地出身者の方に、ふるさと中野を訪問していただき、市民と交流を図る「ふるさと里帰り」事業を計画しています。

中野市は、美しい自然と四季のうつろいとともに、エノキダケ・りんご・ぶどう・アスパラに代表される農業も盛

我が青年部の『国際都市宣言』

関東・前橋青年部

前橋商工会議所青年部は、「歩んだ十年、そして二十一世紀へ」をスローガンに掲げ創立十周年を迎えました。

講師例会、先進地視察を始め、チャリティーのみの市、クリーン前橋運動、前橋まつり、県民スポーツ祭への参加などの定例行事のほか、親睦行事としてファミリー鱒釣大会、親睦ゴルフ、麻雀、スキー教室、クリスマスパーティーなど多くの行事があります。特色のあるものとしては、国際化への対応方法があります。まず考えるのは、姉妹都市ですが、どういうわけか、我が前橋市には姉妹都市がありません。無理に提携するとどうしても上辺だけのものとなり、長続きしません。

そこで当青年部としては、『国際都市宣言』をして、外国から訪れるお客さまを総て歓迎して国際化に対応しようというわけです。その第一弾として「21 YOUTH INVITATION PROGRAM」計画のホームスティの受入れがありました。この計画は中曽根総理が五十八年五月にアセアン諸国を歴訪され提唱したもので、アジア、太平洋諸国の青年を日本に招き、日本の同世代の青年と交流を通じ、友好と協力の関係を一層強固にしようというものです。

前橋はインドネシアから二十一名の若者を受け入れました。最初は外国人を家庭に入れることに抵抗を感じた会員も、別れの時には愛着ゆえ、涙ながらに別れを惜しむ光景が見られました。このような交流を大切にし、自然な形で国際化を推進、自然な形で姉妹都市提携に持ち込めたら、と考えています。

（総務副委員長　加藤　幸雄）

前橋青年部では、インドネシアの友人たちと交流を深めた

ブロック大会開催に燃える

中国・長門青年部

長門市は山口県の北西部に位置し、人口わずか二万七千人足らずの小さな市です。古くから水産と観光の町と呼ばれ、水産では漁獲高一万七千トンを誇る仙崎漁港、水産加工品では全国的にも有名な仙崎蒲鉾。観光ではいま話題の長門市が生んだ金子みすずの詩集にも登場する海上アルプス青海島、また、三百五十年の伝統を誇る萩焼深川窯も茶道などで全国的に有名です。

それに加え、温泉地として俵山、湯本温泉を有し、山口県観光の宿泊地となっています。

我が青年部は、現在七十二名の会員を有し、今年度は五周年という節目の年にも当中国ブロック運営研究会の開催を引き受けることになりました。そのためブロック大会成功に向けて全会員一丸となって、英知を結集し、その諸準備に追われている毎日です。

全体の事業方針は、企業経営を追求し、商工会議所事業に対して積極的に協力することによって、豊かな地域づくりを目指す。そのために異業種交流、地域間交流を推進、会員間の親睦を図ると同時に個々の資質を高め、会員の増強、広報活動の充実に務めるということになります。

委員会構成としては、商工・水産・観光問題・経営・親睦・研修・広報・運営研究の八委員会で構成し、各委員会ともユニークな事業に取り組んでいます。

（会長　大谷　峯一）

日本商議所の訪問と花の東京大オリエンテーリング

東海・津青年部

当青年部では、七月例会として本年度事業のメインでもある「日本商工会議所等訪問と花の東京大オリエンテーリング」を〝東京例会〟と銘打って、七月十二日から十三日にわたって実施しました。

一行二十八名は、豪華な二階建てバスで十二日早朝、津を出発、車中、各委員会の当番により、なごやかに延々七時間余の道中を経て、目的地東京に到着、一日目の行事である「花の東京大オリエンテーリング」（会長の発案）に入りました。

この行事は、七班に分かれて宿泊先である晴海から渋谷駅―アンナミラーズ（我が青年部会員井村監事・井村屋製菓直営パイレストラン）―竹下通り―箱根山（会長のかつての下宿地）―早稲田駅をチェックポイントに戻るラリーのようなもので、平均所用時間を競うとともに見聞を広めるのを目的としたものです。リタイア組もなく無事終了、後の夕食懇談会で表彰を行い遅く迄いろんな出来事を話しながら一日目を終了しました。

二日目は、いよいよ我々の母体である日本商工会議所を訪問、津商工会議所青年部のハッピを着て、出迎えていただいた星川氏の案内のもとに会議室で東京例会を開催しました。馬島部長、坪田主幹、星川主査のご出席のもとに、スピーチを主に一時間という短時間ではありましたが、青年部としての認識を高めることができました。

引続き、企業研修として東京海上火災保険本社を訪問、竹田社長自ら歓迎をいただくとともに、各位より民活を中心とした高度な内容のお話を聞き、感銘を受けました。

このあと、急遽、面会の決まった地元選出の斉藤厚生大臣を訪問し、初めての大臣室に、会員興味津々、また、ざっくばらんに大臣との会見を終え、夜無事帰着しました。

今回の事業では、元青年部会員（現在在京）の協力もあり、本年度の当青年部基本方針である「地域・友情・学習」に沿った事業であったことを報告させていただきます。

（会長　竹林　武一）

日商会議室で開かれた津青年部の東京例会

ブロック報告

北海道

道内連絡協議会が発足

六十二年度北海道・東北ブロック運営研究会の開催を登別で行うことは、六年間ご一緒した東北ブロックの皆さんとのお別れでもあります。

会員数の少ない北海道にとって、前途多難船出と思わねばなりません。しかし、東北ブロックの皆さんがブロック連結成を目指して活躍されておられるのを見ますと、自分たちの北海道ブロックの自立を、早急に進めることが急務であることを痛感します。

私たち登別商工会議所青年部は、昨年六月、道内青年部で初の全体会議を行い、本年六月、北海道商工会議所青年部連絡協議会の発足に至りました。初めて自立の道を明確に示したわけです。

六十三年以降は、道内青年部の固い結束で、北海道ブロックの発展に努力していきたいと思います。（登別商工会議所青年部・横尾　逸郎）

東北

部設置一〇〇％達成に向けて

私たち東北ブロックは、各青年部の活動状況、情報交換親睦、交流、そして今後の青年部のあり方を模索する場としての運営研究会の開催、また、未設置青年部および県連の加入促進について、活動してきました。昨年は、東北六県商工会議所青年部連絡協議会の発足、福島県連主管での全国大会の開催などの活動ができました。

現在、東北ブロック四十二の商工会議所中、三十一か所に青年部が設置され、その設置率は、七四％になっています。県連としては福島、山形に設置されました。

また、これまで北海道と合同で行ってきた運営研究会はことしの北海道・登別での合同開催で最後となります。東北ブロックは、青年部設置一〇〇％達成に向けて設立勧奨を展開しているところです。

（塩釜商工会議所青年部・参与　菅原　周二）

関東

設置・加入が相次ぐ

全国大会はことしの沖縄で第七回を迎えますが、第一回の全国大会は前橋市で開かれました。このように伝統あるブロックは、ことし前橋商工会議所青年部が創立十周年、また、桐生・伊勢崎も五周年と、各地で周年行事を開催しています。

県単位では、埼玉、千葉、静岡で県連結成の動きがあり群馬では館林が商青連に加入するそうです。また、沼田では青年部が六十余名で今秋に結成される予定です。

このように当ブロックでは青年部の設置や加入が促進されており、望ましい傾向にあります。しかし、商工会議所数に対する青年部の設置は六二％（六十二年五月現在）でまだまだ低く、今後一層の強化を図る必要があります。

なお、本年の関東ブロック大会は、足利商工会議所青年部の主管で、八月二十二日に開催されました。（伊勢崎商工会議所青年部　古賀　友二）

北陸信越

4県が一致協力して

私たちの北信越ブロックは青年部会先進圏であります。富山県のリーダーシップのもとに、新潟、長野、石川の各部会が一致協力して活動を展開しています。

ブロック設立以来、富山県内で開催されてきた運営研究会も、三年前には五泉市（新潟県）、昨年は輪島市（石川県）、ことしは村上市（新潟県）、また、来年は長野県で開催と、現在ではどの県でも開催が可能になりました。各々の開催地では、各部会が活発になってきており、青年部会未設置会議所への強いアピールにもなっています。

北信越ブロックの地域性ゆえに、行財政の利害が必ずしも一致しない場合もありますが、お互いの特質を理解し合いながら、各企業あっての青年部会という原点を忘れず、これからの事業活動を推進していきたいと思います。（北陸信越商工会議所青年部会会長　近藤　輝夫）

東海

低迷を打破し交流促進

現在、東海ブロックは、全国的にみても青年部数が少なく、活動が低迷している地域かと思います。しかし、個々の青年部を見れば、素晴らしい青年部が多く、これからはそうしたところが地域リーダーとなって、青年部活動を盛り上げていく必要があると思います。我々のところでも、ことしは渉外委員会を設け、他の青年部との交流を積極的に行い、東海地区の将来に向けての対外活動を強化しました。

近畿

65年度全国大会はぜひ大阪で!!

近畿東海ブロック大会が北大阪商工会議所主管で、九月十四日開催され、三十八商工会議所三百二十名が参加しました。

①原点を見直し二十一世紀へ翔く青年部

②国際化時代における青年企業人の果たす役割

③情報化社会を迎えての青年部活動の課題

①原点を見直し二十一世紀へ翔く青年部

②国際化時代における青年企業人の果たす役割

③情報化社会を迎えての青年部活動の課題

会議所（本年度京都府幹事）が商青連に加盟され、今後多数の仲間が加わるものと、思われます。

来年度以降は、六十三年部会長会議を洲本商工会議所主管で、六十三年近畿ブロック大会を奈良商工会議所主管で開催します。この時期、奈良ではシルクロード博開催中です。また、花の万博が六十五年に大阪で開催されます。全国大会も大阪で開催しませんか!!（奈良商工会議所青年部　岡本　敏孝）

ブロック報告 四・五面にも掲載。

活性化の象徴『OUR』いけだへそ祭り

四国・阿波池田青年部

あわ◎◎◎◎

「みつめよう……ふるさとの愛」をテーマに、我が「OURいけだへそ祭り」も三回目をこなし、意義あるイベントへと成長いたしました。

青年部活動の中で、こうしたイベント事業をこなす陰には、全会員に対して掛ける物心及び作業動員の負担は大なるものがあり、我が青年部の事業として、問題なきにしもあらずですが、地域活性化への使命感に燃え、難関・障壁を超えながら、地域社会の評価を着実に得てまいりました。

全国各地で「へそ祭り」なるものが行われていますが、地元指向という点で我が「へそ祭り」には地域事情から来る特色があります。

イベント内容には、過疎対策の若者・子供向けのものを中心に地域住民全世代の心の交流の場となるような企画をし、シンボルマークにはあるはずのないヘソをつけた「へそガエル」をデザインし『ふるさとへカエル・過疎からよみがエル』の望みを託して使用しています。また、話題性と人材育成の面から、祭り会場はもちろん、全町内で使用可能な商品券「へそ紙幣」なるものを実行委員長の顔を載せ、発行し、パロディのおもしろさを加えました。

この「へそ紙幣」は為替レート百ヘソ／百円とし再度、日本国通貨「円」への交換は不可、として流通しており、無論、話題沸騰、楽しさいっぱいで喜ばれています。

このように我が青年部では青年経済人として本来の活動を見失うことなく、地域活性化への対応にも努力しているところです。

（会長　大西　万時）

クルージングに大はしゃぎ

近畿・洲本青年部

洲本商工会議所青年部（地村耕一良会長）では、去る七月二十八日に「モーターボートの体験航海とかわら工場見学」を実施いたしました。

この事業には、一般募集により市内の小学生四十八人が参加、洲本沖のクルージングと創作かわら作りを楽しみました。

午前九時、洲本市小路谷のサントピアマリーナに全員が集合、まず「海に出た時の注意・ヨットの乗り方」などの講義を受けたのち、クルーザーに分乗して沖合へ、沖合でさらにモーターボートに乗り換え、そう快なクルージングに歓声をあげました。

体験航海の後は、バスで三原町の「かわら工場」へ移動、かわら工場では「かわらの製造工程」を見学し、さらに「創作がわら」の製作に取り組みました。

子供たちは、粘土がわらにそれぞれ思い思いの絵や模様を描いて、自分だけのかわらを作りあげました。

（事務総長　北畑　秀行）

洲本青年部では小学生らとモーターボート体験航海を行なった

異業種交流『フォーラムかしま』

九州・鹿島青年部

当鹿島市は、佐賀県の南西部に位置し、人口三万五千余りの城下町で、日本三大稲荷神社の一つである祐徳稲荷神社を有する、閑静な農村都市であります。当市の経済・産業・文化とも現状は停滞気味であり、官民一体となった地域振興策を推進している最中であります。

私共、青年部は設立して六年目を迎え、昨年五月には第六回九州ブロック運営研究会を主管し、九州管内の青年経営者との意見交流を深めるとともに、郷土かしまのPRに微力ながら貢献したものと考えています。

今後、地域の振興を推し進める起爆剤は、我々若手が主体になるべきという発想から、商工会議所青年部・青年会議所・農漁業等の若手が一同に会し、「フォーラムかしま」なる団体を設立し、その中で地域振興に貢献できる『イベント』及び『人づくりの場』となるよう活動しています。

我々が最初に取り組んだイベントは、全国でも珍しい有明海の潮を利用したガタリンピック（潮の上で種々の競技を開催）の開催であり、第三回目を迎えた今年はNHKを初め民放の放送網を通じて全国へユニークなガタリンピックが紹介され、かなりの反響を博し大成功をおさめたものと思います。

しかし、今後はこのイベントをいかに地域の振興に結びつけていくかが課題であり、新しい産品の創造とか潮公園の設置など「フォーラムかしま」で模索している最中であり、我々青年部も地域経済人の一員として積極的に参画していく所存です。

（顧問　滝本　辰也）

大名行列ありませんか？

貴地に大名行列・奴行列があればお知らせ下さい。

奈良では春日大社の祭礼十二月十七日に伝統八百五十年の芸能の祭が行われます。天平時代より江戸時代まで行列が出ます最後に大名行列が出ます。衣装道具等の補修、行列の研究をしています。全国の皆さん、貴地の大名行列の開催地・日時を教えて下さい。取材にうかがいます。

奈良市登大路町三六
奈良商工会議所青年部宛

新入会員

（六十二年四月一日から同八月三日までの各商工会議所青年部）

▽**東北**　石巻（宮城県）気仙沼（同）新庄（山形県）

▽**北陸信越**　七尾（石川県）

▽**関東**　館山（千葉県）川口（埼玉県）三浦（神奈川県）静岡（静岡県）

▽**東海**　伊勢（三重県）

▽**近畿**　城陽（京都府）泉大津（大阪府）箕面（同）龍野（兵庫県）

▽**四国**　新居浜（愛媛県）東子（同）

▽**九州**　八女（福岡県）伊万里（佐賀県）串木野（鹿児島県）

チャレンジ精神

未熟児でもエネルギーがあった

司会　渡部さんの簡単な略歴をご紹介させていただきます。誕生日は八月二十七日。二歳の時からスケートを始め、十歳の時、米国にスケート留学をしています。本場の環境で着実に力をつけるとともに、外国人との交流で表現力が豊かになり、スケートが鮮やかなものになりました。十二歳で全日本チャンピオンとなり、八年連続チャンピオンと、前人未踏の記録をつくっています。五十四年にはウィーンで行われた世界選手権で三位、と当時大変な騒ぎとなりました。今はスケート界を引退され、テレビなどで活躍中です。絵美スマイルと、彫りの深い顔立ちで、人気となっています。

古川　二歳からスケートを始めるというのはすごいですね。私など二歳といえば、福井空襲で、母の背中に逃げ回っていました。渡部さんの二歳はもうスケート靴をはいてたんですね。

渡部　スケートを始めた動機というのは、小さい時に余りにも元気がよ過ぎたんです。未熟児でありながらエネルギーはあったんです。生まれた時は二千五百㌘で、五歳の時でも三歳ぐらいにしか見られないほどチビだったんです。小学校に入っても五歳ぐらいにしか見られませんでしたね。

古川　それじゃ、かわいい、かわいいと言われたんじゃないですか。（笑）

渡部　チビと言われて悔しかったですよ。クラスでも一番前でしたし、まさかこういうふうにスポーツをするという環境ではありませんでした。ここまで続けられたのは、小さいうちに始めさせ、やらせ続けた親の努力があったからだと思います。小さいころは何をやらせればいいか分かりませんし、スケートが一番オリンピックに行きやすいスポーツじゃないだろうか、ということになったわけです。

古川　ご両親がスケートをなさっていたわけですか。

渡部　いいえ。でも姉がやっていました。私がオリンピックにまでいけたのは、ある意味で幸運だったと思います。もし体操を選んでいたらオリンピックに行くのは難しかったろうし、水泳では体が小さすぎてとても無理でした。

古川　オリンピックの出場は何回ですか。

渡部　七六年のインスブルックと八〇年のレイクプラシッドの二回です。一回目が十三位、二回目が六位、メダルの可能性があったので、かなり騒がれたみたいです。

古川　やはりプレッシャーでしょうか。

渡部　失敗してしまったんです。初日、二日目と四位だったのですが、最終日で六位になってしまいました。

古川　ジャネット・リンでしたか、転んでしまったのは。

渡部　そうですね。転んでも六点満点が出ました。ジャネット・リンのお陰でちょうど私がスケートをしているころブームになっていました。マスコミも随分取り上げてくれました。そういう意味でアメリカにいたことはよかったと思うのです。アメリカで基礎トレーニングを積むことができましたし、アメリカでは一人の人間で、日本にいるように騒がれて浮かれてしまうこともなかったと思うんです。語学も日本語よりも英語の方がうまくしゃべれますし、スケートがだめなら英語の先生にでもなればいい、という考えもありました。（笑）私に恵まれた環境をつくってくれた親に感謝しています。

古川　「孟子三遷の教え」。孟子の母親は子供のために三度引っ越して子供によい環境をつくってあげたという言葉があります。まさに親の力は大きいですよね。

渡部　一人っ子というのは甘やかされていますからどうにもなりませんよね。私の家では四人もいましたから、末っ娘の私は放りっぱなしという感じで、兄弟のおもちゃみたいなものでした。だからわんぱくに育ったんでしょうか。（笑）ただ、日本にずっといなかったものですから、教育面でちょっとギャップがありました。国立大に入りたかったと思うこともありました。でも、国立大学を卒業したからといって今の仕事にはつけないですし、自分の選んだ道に後悔はしていません。ただ、三位で終わってしまった。もう少し何かで努力したら一位になれたかもしれない、という悔いがないでもありません。

古川　日本人であるがゆえの格差とかはありませんか。例えば体型とか。

渡部　もろ日本人体型ですからね。（笑）外人の方は、確かに筋肉質ではありますが、リンクの真ん中に立っただけでかっこいいですからね。私の場合は、スケートの切れ、技術で三位に入ることができたわけですし、外人の方よりも、技術向上させるため倍以上練習しました。また、いいコーチにも恵まれました。

『親の厳しさ』に感謝する

古川　アメリカには何年ほど。

渡部　十年いました。ミネアポリスとデンバーというところです。

古川　ご両親は。

渡部　日本にいましたが、母がしょっちゅうアメリカに来てました。子供に自分のやりたいことをやらせるのは大切なことですが、ある程度制限して親が厳しくみてあげないと、子供はなまけ者ですから遊びが一番いいに決まっています。親は子供に厳しくなければならないと思うんです。最近、子供には好きなことをさせているという親がいますが、それはちょっと考え方が違うと思います。ある程度厳しさがないと、将来の子供の幸せはないと思うんです。子供を自由にさせるのは、短期間をみればいいかもしれませんが、長い目で見て厳しい生活を暮らした方が子供の将来のためになるのではないでしょうか。

古川　それが今は、親が子供に厳しくいうのは「勉強」のことばかりですからね。

渡部　受験戦争が厳しくて子供の自由がないですね。

古川　小学校のころから塾に行かせて勉強ばかりさせていると、中学、高校で体力がなくてついていけなくなっているんです。

渡部　遊ばなかった反動が出て、方向を違えてしまったりとか。やはり何でもバランスだと思うんです。片方にばかり力を入れるのではなく、うまく調整することが必要ですね。スポーツも、厳しいばかりではだめなんです。アメリカでは、スパルタ教育ではなかったし、自分を大切にしてくれる先生でしたから、個性を出せたと思います。団体強制教育というのは私はだめですね。

ルールを守って個性を伸ばす

古川　個性を伸ばすということですね。

渡部　全く同じ環境で、同じ育て方というのはよくないからこそ人間なんだと思います。団体生活はある程度の行動範囲のなかではいいですが、縛ってしまっては結局その反発で違う方向に走ってしまったり、自分自身に自信がなくて脱落してしまうのだと思います。女の子の場合、自信がありすぎては困りますが、男の子の場合、柔軟性がある自信が大切だと思うんです。

古川　アメリカと日本の教育はかなり違うんですね。でも、日本は日本なりに良さがあると思います。例えば、皆んなにぴしっと制服を着せることなど。

渡部　皆んなが同じ服装で通学する。いい面もありますが、私は個人スポーツをやっていましたし、人生というのは最後は一人ですから、個人差を大切にしたいですね。

古川　私どもの連合会においても、それぞれは芽生えてきたプロセスが違いますので個性があります。そこで連合会としてつぎ木などをして、ある程度同じ作物をつくるようにしたらいいのか、それともその地域の個性をもっと伸しなさいと、連合会はそれを温かく見守った方がいいのか、今、模索している時です。個性を考える時代でもありますから、各青年部の個性を尊重すべきかな、と迷っています。どう思われますか。

渡部　団体としての仕事、業務ですから、私は何ともいえませんが、私がいいたいのは、人それぞれの生き方としてルールのある中での生き方と、個人で動く動き方はまた違うことだと思います。教科書に書いていないものですから、連合会としてそれがルールで決められているなら守ることだと思います。子供を教科書通りに育てるわけではありませんから、生き方をある程度親が監督してあげて子供の個性を伸ばすことが大事なんだと思うんです。商議所の活動の中で自分たちが決めたルールは守るべきですけれども、その前の段階、人間の心の持ち方は、青年になる前の子供の段階で、大切になってくるんだと思います。

古川　団体にしても個人にしても、やはり社会で生きていく上のルールはきちっと守った上で、自分の個性を出すということですね。

渡部　国の法律があると同じで新しく変えることはなかなかできませんから、そのルールの中で動くことは当たり前です。ただ、子供が育つ中

●5面につづく●

ホスト

全国商工会議所青年部連合会会長

古川 伸二 氏

ふるかわ　のぶじ

古川 逆境を順境に換える発想で

昭和18年8月15日生まれ。福井県福井市出身。福井黒川商事株式会社代表取締役。福井県繊維産元協同組合青年部会長。前福井商工会議所青年部会長。家族は母・妻・娘2人の5人家族。ゴルフ（ハンディ20）、ソフトボールが趣味。好きな言葉は『人間万事塞翁が馬』。

ブロック報告

中国　未組織の広島県設置に努力

中国ブロックにおける青年部設置状況は、山口県を筆頭に島根県、鳥取県、岡山県と設置の努力が見られ、今後の設置も期待が持たれます。広島県は、今日においても設置が見られず、今後、我々商青連の役員としては、努力を惜しまず、一日も早く広島県下に青年部の産声が聞けるよう努力したいと考えています。

県連設置は、さすが幕末期に日本の夜明けに尽力された方々の輩出県である山口県、島根県の両県です。鳥取県、岡山県は、核となる青年部が活躍していますので、早期に設置が期待されます。

全国的に今後、青年部設置が進むことと思いますが、何故、地域に青年部が必要か、地域が青年部に何を求めているか、この点を再認識の上、設置すべきと思います。

（津山商工会議所青年部　津本　憲一）

四国　全国一の設置率

四国ブロックは現在、諸先輩の努力によって設置率は全国一の八二％であります。しかし、残念なことは、徳島県と愛媛県の県都にまだ青年部が未設置であると言うことです。

去る七月五日第一回ブロック部会長会議を開催し、各青年部の活動状況及び今後の青年部の運営について話合い、未設置青年部への設置促進と商青連への加入促進について各県単位で努力していくことを決めました。

現在、徳島県は徳島商工会議所が設立総会を準備中であり、また、小松島商工会議所は設立すべく努力しているところです。

高知県は商青連に未加入青年部の年内加入について話が進んでいます。

愛媛県は本年度二青年部が加入し、未加入・未設置商工会議所に働き掛けています。

香川県は設置率一〇〇％で県連としても活躍中です。

九月十三日には第二回ブロック部会長会議と、第四回四国ブロック運営研究会を開いて再度話合いの場を持ちました。

そして、近い将来、ブロックとして全国で一番先に、設置・商青連加入が一〇〇％になることを夢みています。それが商青連の発展につながると信じています。

（阿波池田商工会議所青年部　馬宮　功）

九州　全国大会を機に九州は一つ

九州管内の青年部設置は、本年度において全国平均に近づいたものの、まだ未設置会議所が四割近くあるのが現状です。

部会長会議において、本年度の重点目標に、青年部設置の積極的な推進を掲げ、各県単位で正副会頭会議及び事務局長会議の席上、設置会議所を通じ、青年部の必要性を訴え、青年部の設置を積極的に呼び掛けています。

県単位での連合会組織が、すべての県に設置されていない

左頁へつづく

燃やせ!! 会長対談

ゲスト

元フィギュアスケート日本代表

渡部 絵美さん

わたなべ えみ

昭和34年8月27日生まれ。東京都出身。2歳の時からスケート靴をはき、10歳で米国にスケート留学。12歳で全日本選手権など各タイトルを独占、その後8連勝、世界選手権3位、レークプラシッド冬季五輪6位など輝かしい戦績を残す。55年現役引退。現在プロ・スケーターとして、また、スポーツ解説、司会などで活躍中。

個性とバランスが大切ですね

渡部

●4面からつづく●

で持つ意気込みを与える親が、小さい時から教科書ばかり見せて受験、受験というのはよくないと思います。スポーツの中においても、自分を活かせるスポーツをやって一流になるための努力も必要になってきますから、将来に役立つようなスポーツ行動をとってほしいのです。野球部に入ったらその監督に任すのではなく、それぞれの家庭の子供たちなのですから、親がしっかりと最後まで見守るということが大事なんだと思います。古川会長はお子さんにどんなことを教えていらっしゃいますか。

古川 福井で盛んだったスポーツで、フットベースボールがあります。女の子の競技なんですが、ドッチボールのボールをホームでけって、後は野球と同じルールで行うんです。その監督をしていたんです。自分の娘がちょうど五、六年生になった時、ちょっとレベルが落ちるんですが連れていってやらせても、大会には出さないんです。他の監督をみると、自分の子供は特別扱いして、下手でも出すんです。しかし、監督と親はきちんと分け、ちゃんとけじめをつけて世の中はそんなに甘くない、社会に出たら、親はついていけないんだから、と教えるようにしました。

渡部 まして子供が親を越すことはあり得ますし、親以上の人間になってほしいのは当然だと思います。親以上の人間になるということは、一つの目標でもあると思うんです。

古川 自分より子供の背が高くなって喜ばない親はいないと思います。これは一つの例で、親はすべてにおいて自分を追い抜いてほしいと思っているはずです。

渡部 私はこれから母親になるわけですが、子供には好きなように生きてほしいという気持ちがあります半面、私が生きてきた人生が子供に合うかというと、それは別だと思います。私は一日八時間氷の上にいて、青春のすべてが氷の上でした。そういう青春を子供にさせたいかというと、そうではありません。夫がプロ野球の選手であればプロ野球の選手にしなければならないわけではありません。監督、父親、母親は全く別なものとして区別しなければなりません。日本は一代目、二代目というのが多いですよね。立派な後継ぎをつくらなければならないなどというのは大正生まれの方がすることで、昭和生まれの今の時代にはふさわしくないです。自分の子供よりいい人間がいたら後を継がせればいいと思うんですよ。

古川 社長というのは社員の中から昇格となる。だからしっかり頑張れ。息子も社員になって、社長としてふさわしい資格がとれた時、社長にしてやるくらいのプレッシャーをかけないと、のほほんとしたいい加減な社長ができてしまいます。

渡部 トップに立つ人間の生き方は、社会に大きな影響を与えますから、いい人にリーダーになってもらい、引っ張ってもらえれば、底が高くなってみんなが高まってくると思います。かわいいだけでは子供は育てられないと思います。

古川 その壁をつきやぶるコツは一言で言ってどんなものですか。

渡部 やっぱり自分に厳しくということですね。私は練習、練習。何度涙を流したか分かりません。自分への挑戦ですからうれしくて涙を流し、悔やしく涙を流しました。プレッシャーの中で一〇〇%自分の力を出すというのがどんなに大変なことか、身にしみて感じています。そのころから比べれば、今の仕事はあのプレッシャーがありませんから、ある意味で楽なところもありますね。

古川 そのプレッシャーのお陰で度胸もついたんじゃないですか。

司会 会長は今までの人生の中で一番苦しかったことを、どのように克服してこられましたか。

古川 一番苦しかったのはやはり大きな倒産にあった時ですね。その克服法ですが、私は割と楽天的なんです。「人間万事塞翁が馬」という言葉のように、あの時の失敗があったからこそ、今の私がある。私は逆境を順境に切り換えるように楽天的に考えた方がいいのではないか、と今日までやってきました。渡部さんは世界各国を回られていますが、日本を離れてみての日本観はいかがですか。

渡部 やはり外国にいると日本のよさが分かりますね。こんな小さな島国である日本が一生懸命働いて、世界経済に大きな影響力をもつまでに大きくなった。一生懸命生きているというのは素晴らしいことだと思います。外国に比べ、短期間で成長していますよね。特に戦争が終わってから、その勢いはすごいと思います。

古川 六月に初めてアメリカに行き、日本を見つめ直してきました。素晴らしいことは、戦後四十余年で世界経済の一等国となり、技術を製品化するのがうまいんです。アメリカの場合、技術はたくさん持っているんですが、それを製品化する過程で労働者がうまく働いてくれていないようです。日本人の器用さ、学び上手を感じますね。

渡部 アメリカに行った場合、アメリカの良さを知ったら、その時日本の良さも同時に感じてくるような人間でなければいけないと思います。確かにアメリカは素晴らしい国ですが、日本人としての意識を常に持ちながらアメリカに入らなければ、何の意味も持たなくなってしまいます。日本人は日本人として外国に行き、外国の良さを吸収してくるべきだと思います。

古川 外国選手をそのまま手本とするのではなく、ヒントとして帰ってくる。自分なりに消化することが大切ですね。経済摩擦で日本の立場はあまりいいとはいえません。これからは異業種、同業種交流として、日本のよいものを持っていき、外国の立地条件、雇用条件などのよさとタイアップし、一プラス一が三にも四にもなるような方向にもっていくべきだと思います。

渡部 ぜひこれからそういう環境をつくる最大の努力をしし、これから四十年先の日本が今よりもずっといい日本になってほしいですね。

古川 そのためにはやはり、次代を担う子供の教育が大事ですよね。子供たちが育って世界にはばたき、世界の国々と仲良くやってほしいですね。きょうは貴重なお話をいただいてありがとうございました。

自分に挑戦する厳しさを

古川 渡部さんは今、スケートから退かれていますが、どんな生き方にチャレンジしていますか。

渡部 女性としての幸せイコール結婚ではないと思っています。人間ですから愛情は欲しいです。素直に好きなものは好きという生き方をしたいですね。

古川 素直にその人と結婚したいと思ったら結婚もあり得るということですね。

渡部 ただ家に帰って寝るだけという夫では悲しいですし、これからの女性は、チャレンジできる部分がたくさんあります。女性の場合は、内職とかパートという形でないとだんな様が不機嫌になるから、ということが多いですよね。そうではなくて、お互いが信じ合った中でお互いが堂々とチャレンジする、そして家庭を持つことがこれからの生き方だと思います。会長にとってのチャレンジは。

古川 一〇〇%商工会議所が連合会に入っていただき、商青連の組織強化が私のチャレンジです。

司会 渡部さんは今までの人生、スポーツを通して苦しい場面が数多くあったと思います。大きな壁に毎日のようにつき当たっていたのではないでしょうか。

渡部 話し切れないほどありました。スケートに関しては。壁にぶつかる時もあれば、波に乗る時、スランプでトンネルに入って出てこれない時もありました。優勝した時の喜びは一瞬の打ち上げ花火みたいなもので、それをつくる時の挑戦は辛いことも、楽しいこともたくさんあります。

外国の良さを吸収する

心に残る一冊

人間世(荘子)

―『無用の用』の教え―

高知商工会議所青年部副会長 永野正展

荘子の『人間世』(じんかんせい)の中に、無用の用という教えがある。この教えに最初に出合ったのがちょうど大学受験の頃であり、受験勉強中であったが荘子をはじめ老子・孫子・孔子・韓非子等々、中国の教えに夢中になり、読み耽ったものであった。

今日でも時々読み返してみるのが、荘子であり老子である。日常の乾いた現代社会を脱し、自然と人間の基本考を教えてくれる知恵である。

その中で最も気に留めているのが無用の用である。教えの中では大木の話として次の一節がある。

南伯子綦という人が商丘地方を旅した時、ひときわ目をひく大木を見つけ、近寄ってみると、馬車千台が その陰に休める程大きい。

「何の木だろうか、良い材木がとれるだろう」

と考えたが、よく見ると、枝は曲がりくねり、良材にはとてもなりそうになく、根元は根がからみあい、とても使えない、葉を噛んで次は……というようにでみたところたちまち口がただれ、葉の匂いを嗅いだところ酔を発し、三日もの間苦しんだ。

南伯はそこで悟った。

「この木は何の役にも立たない木なのだ。だからこそこんなに大きく成長できたのだ」

(人間にとって)無用であるからこそ成長し、天寿を全うする事ができる。しかし、大木であるがゆえ人々は無心のうち木蔭で憩い、神木として祭られる。また動物たちの遊び場ともなり生活の場にもなる。

以前、私は家族で茄子やトマトを庭の隅で育てた事がある。素人ゆえ土をたいして耕しもせず、少量の水と肥料を施し種を蒔いた。芽が出てやがて小さな幹の枝のあちこちに花を咲かせて実を付けた。家族で「この枝は俺のもの」「この枝は私の枝」と言いながら一時を楽しんだものである。

しかし、実があまり大きくならない内に収穫したため、その後、これらの枝はたいして成長せず、花も実も育たず、秋を待つことなしに枯れていった。

最近、自分の本業以外での消費時間が年毎に多くなってきた。今日は何々会、明日は何々祝賀会、そして次は……というようになり、自身の畑を耕もせず、まして草とりや世話もろくにせず、他家の花や実を愛でたり、時には批評している。そんな自分に警告している言葉が無用の用の教えである。

い現状(三県設置)では、縦の連携が弱く、今後県連組織の設置を促すとともに、九州ブロックの連合組織を早期に設置し、組織の充実・強化を図ってゆくよう努めます。

本年十一月に、沖縄県連主管による全国大会(九州管内二回目)が開催されるにあたって、九州は一つという認識のもとに、また、二十一世紀へ向けて、時代を担う青年経済人として、積極的に参加するよう各単会で努力しているところです。(鹿島商工会議所青年部顧問 滝本 辰也)

人間、人間、人間

ん、小さいころから世界のヒノキ舞台を踏まれてきて、自分に得られたものは何ですか。

渡部 まだ分かりませんね。死ぬ間際になってスケートをやっていてよかったと思えたらいいなあとは思います。一生懸命スケートをやっていい結果を出せて、今の職業もできるということはすごくよかったと思っています。

古川 スケートが基で今日の渡部絵美があるということが一番でしょう。

渡部 一日一日、人の役に立つような生活を送ることが大切だと思うし、人の意見を素直に聞き、他人に迷惑はかけたくないです。

古川 渡部さんも、アメリカへ留学してそこでスケートの仲間やその他の友達との出会いが大きな収穫だったと思います。私も会長として、このように大ファンの渡部さんにお会いすることもできましたし、全国各地で地域の人たちと知り合い、友達になれ、幅広いつきあいができたことが一番の収穫ですね。

これからの地域経済

日本経済新聞
地方部次長
森野　美徳

地域経済活性化をめぐる議論が活発になっている。石炭や造船、鉄鋼といった構造不況業種の合理化による雇用不安、地域商業の衰退などの悪影響、円高不況、企業誘致の不振など地域経済を取り巻く環境がきわめて厳しくなっているからだ。二十一世紀の国土づくりの指針となる四全総（第四次全国総合開発計画）がまとまったを機会に、これからの地域経営、地域経済活性化の展望を探ってみよう。

八ヶ岳型の国土づくり

四全総が閣議決定されたのはさる六月末。この計画は「多極分散型国土」の形成を基本理念とし、新幹線、高速道路、ジェット空港などの高速交通体系による「交流ネットワーク」の整備を最大の目標に掲げた。

多極分散型国土とは「世界都市・東京」を頂点としつつ、地方の各ブロックに中枢管理機能を備えた拠点都市をつくる。そうした拠点都市を中心にブロック全体で自立できるような機能集積を図っていく……いわば東京だけが富士山のようにそびえ立つのではなく、八ヶ岳のようにいくつもの山が連担するような国土構造をめざすものである。

こうした目標を実現するために、四全総は全国二万四千キロにの高規格幹線道路の建設を最大の売り物にした。これまでの全国総合開発計画の中ではじめて地域別整備の目標を示したのも、この計画の特色だった。地域振興のためのプロジェクトは地元の要望をほぼそっくり受け入れた。しかし、その結果、全体として総花的に成ってしまったことは否定できない。

ブロック中枢都市の自立

さて、それでは今後の地域経済はどんな方向に展開していくのか、また、どういう方向をめざすべきなのだろうか。四全総の脈略にそって言えば、いま、もっとも重要なテーマは札幌、仙台、金沢のようなブロック中枢都市の魅力を高めることだろう。そして、ブロック全体を支えていけるだけの都市機能、経済力をつけることではないだろうか。

四全総が「多極分散型国土」を打ち出した背景にあるのは、ここ数年、顕著になってきた東京一点集中だった。四全総自体はすでに昨年十二月の中間報告の段階から「世界都市・東京」の役割を積極的に評価、東京都心部や臨海部の開発をはっきり打ち出していたがこれに対して、地方の自治体、経済界などから猛反発を受けて、最終案ではややトーンダウンした経緯があった。

「多極分散型国土」という考え方も、こうした背景から生まれてきた。東京一点集中に対抗して、地域経済の自立的発展を図っていくためには、ブロックごとの拠点都市が都市機能、経済機能を強化して、わざわざ東京まで出掛けていかなくても、十分、やっていけるだけの魅力を備えることが必要だからである。

札幌、仙台の実験

その意味で、最近、注目されるのは、仙台圏の発展ぶりだ。この夏、仙台市に最新鋭の地下鉄が開通し、ようやく「大都市」の仲間入りを果たした。この地下鉄で市中心部と結ばれる泉市では三菱地所の「泉パークタウン」をはじめとするニュータウン開発が急ピッチで進められている。同市や周辺町村を合わせた合併、仙台市の政令指定都市昇格の見通しも明るくなってきた。

こうした都市としての成長だけでなく、地元の自治体、経済界と東北大学などの学界が一体となって推進中の「東北インテリジェント・コスモス」構想も、地域の自立的発展をめざす動きとして評価されている。

仙台中核テクノポリスの新しい産業の育成を支援する「二十一世紀プラザ」構想もいよいよ具体化してきた。仙台圏は東北経済全体の力を押し上げていく牽引車になろうとしている。

仙台とならんで注目されるのは、札幌市の動き。市が郊外の丘陵地につくったソフトウエア産業の拠点「札幌テクノパーク」には、市内外の企業が立地し、地元ソフト業界によるコンピューター専門学校もオープンした。

炭坑の閉山、造船、鉄鋼などの合理化により、札幌市には北海道各地からの人口流入が続いているが、市が自ら雇用の受け皿をつくり、北海道経済を支えていこうというもので、近く第二テクノパークの建設にも着手する計画だ。

ブロック内の機能分担を

札幌、仙台、金沢などの中枢都市の魅力を高めるのと同時に、ブロック内の地方都市にはそれぞれ独特の機能を持つようにして、両者がお互いに役割を分担していくことも必要だ。

仙台が東北の「大都会」だとすれば、盛岡は城下町独特の落ち着いたたたずまいを売り物にする。札幌の都市型サービス機能に対して、千歳、恵庭は空港、住宅、生産機能を担っていく。

そうした機能分担を図りながら、その果実をブロック全体に分け与えていく。こうした方向をめざして、具体的なプロジェクトを展開することが、地方が生き延びるための〝サバイバル戦略〟といえるのではないだろうか。

若手経営者に期待する

大阪商工会議所会頭
佐治　敬三

わが国の経済は今日、大変革の真只中にある。一昨秋のG5を契機とした急激かつ大幅な円高と貿易摩擦は、輸出関連産業を中心に事業規模の縮小や広汎な人員整理、さらには高水準の企業倒産をもたらし、失業者は二百万人に達しようという状況に至っている。

一方、産業構造そのものも大きく変貌しつつある。これまで経済の牽引力となった重厚長大型素材産業に代わり、情報やサービス関連分野といった脱工業型・知識集約型産業が台頭、経済のソフト化・サービス化が進行してきた。さらに高度情報化の進展や平均寿命の伸長、女性の社会進出、若者の価値観の多様化等等社会構造も大きく変化しつつあり、企業を取りまく経営環境はこれまでにない歴史的な転換期を迎えていると言える。

私は経営環境の非常に厳しい前途多難なこの時期にあたり、次代を担う若手経営者諸君に次の二点を強調したい。

ピンチをチャンスに

まず第一は、今こそ旺盛な企業家精神を発揮してもらいたい、ということである。円高の暗い話ばかりに目を向けていても一向に事態の好転はない。斬新な発想で環境変化を先取りし、自ら明るさを求めてチャレンジする気概がなくては、到底これからのサバイバル競争を勝ち抜いてゆけないのである。現在は過去の学説や経験が通用しないばかりか、将来に対する不安やリスクも増大している。しかし、予想もしなかった難問が次々と発生する時代こそ、企業にとって新たな成長のチャンスがあるとも言えよう。

私は常々、企業のトップたる者は未知の分野に挑戦するフロンティア・スピリットを持たなければ、企業の発展はないと考えているし、また実践もしてきた。確かに新事業や新商品・新技術の開発にはリスクが付きものであるが、そこで失敗を恐れていては、何ら進歩はない。従って、苦難の大きなうねりが押し寄せている今こそ、ピンチをチャンスととらえる企業家精神をもち、常に顧客のニーズを貪欲に追求し、それに応える独自性のある商品・サービスをつくり出すことが何よりも重要であると考える。

「美感遊創」を活かせ

第二は、これからの社会を指し示すキーワードとして、「美感遊創」を是非とも念頭におき、企業経営に活かしてもらいたい、ということである。現在、日本が直面している円高や貿易摩擦の問題は、これまでひたすら経済性や効率性のみを追求してきた結果である。周知のように、重厚長大型産業構造の時代には、大量生産大量販売であり、われわれもこの恩恵をずいぶん受けてきた。しかしながら、モノのあり余る「成熟と飽和」の時代を迎えた現在、価値基準は「モノ」「ハード」から「心」「ソフト」に移り、キーワードも「美しさ」や「ゆとり」「感性」に変わってきた。

「美感遊創」とは文字通り、美への憧れ、心の触れ合いと感動、遊びとゆとり、そして創造の喜びということであり、これらは今、多くの人々が心に抱いている価値観である。これからは「美感遊創」の精神を企業経営に十二分に活かしていくことが混迷の時代を生き抜く鍵となろう。

「企業家精神」と「美感遊創」いずれをとっても変化の激しいこれからのトップには欠くべからざるものである。私は若手経営者諸君が、常に先を見通す確かな洞察力を涵養し、従来の観念にとらわれないみずみずしい発想とリーダーとしての明確な哲学をもち、二十一世紀に向けて果敢にチャレンジすることを強く期待するものである。

一期一会

亀田商工会議所会頭
古泉　栄治

亀田商工会議所青年部会長で商青連副会長の長谷部誠君に「一期一会」というテーマで、同会の会報に掲載する原稿を依頼され、軽く引受けたものの、さて筆を持って書き出すに当って、会議所青年部の会報にふさわしくないテーマではなかろうか、と首をかしげ、何を求めてのテーマかわからないまま書くことをお許しいただきたい。

一期一会という言葉で、いつか読んだ記憶から、赤根祥道先生の「一分禅」という著書を書棚から探し出して見たら、一期一会について次のように解説していた。

人生にはいろいろの人と出会う、この人にはまた会いたいと思ったり、あの人とはもう会いたくないと考えたりする。

よく考えてみると、そう判断しているうちは、相手のすばらしさを、十分にくみとる力がこちらについていないことを証明していると思うようになった……中略……

生涯に一度しか会うことがないのだと思えば、その一度にすべてを賭けていく、瞬に心の絆をしっかりと結びあいたいと思う。毎日毎日多くの人と出合っているが、いいかげんな心で会っていると、学ぶことができない。一期一会の覚悟で細心の気くばりをもって、一瞬一瞬を大切にしていくことだというのである。

先生は、現実の社会生活の中で禅の実践的な研究にとり組んでおり、禅は人間の本性にかかわるもので、生活即禅であるとともに、一日一生の精神で生きることを提唱しておられる。

また著名な思想家である亀井勝一郎（故人）は、人間の幸福とは「邂逅」である。即ちいろいろな人と出合い、めぐりあわせによって、いろいろなことを学び、体得し、開眼する。そして感謝の念をもつことが真の幸福であるというのである。

両者とも人との出合い、応接の機会を貴重な学びの場として、その重要性を説いている。

更に人との出合いに加えて、世の中の変化、時代の推移を敏感にとらえることが大切であると思う。

私は今、七十二才。第一次世界大戦中に生れ、封建的階級社会の貧困の中で育ち、大正デモクラシー、世界的金融恐慌、軍部の支配、日支事変、太平洋戦争、そして敗戦、占領政策による社会体制の大転換、経済復興から高度成長、経済大国、貿易摩擦、円高不況と、波乱万丈の七十二年を生きのびて来たのであるが、この変化の過程にどんな生き方をして来たか、振り返ってみると、前に述べたような世の中の変化のうちに、いろいろな人との出合いで良き教訓を得、いろいろな出来ごとを体験して、我が人生観、社会観、価値観などが形成され、不完全ながら、個性、自我、というものを、ほぼ明確にすることが出来た、と思っている。人間が生きてゆく上に、ものごとの価値判断、意志決定が判然とするということは極めてむつかしいことではあるが、実に重要なことで、その如何で人の幸、不幸が決る場合が多く、企業のトップや政治家のように、社会に大きな影響を与える立場にある人ほど、その意志決定に苦悩するのである。

事業が成功するかどうかもトップの経営戦略、即ちトップの意志決定で決る場合が殆どである。

事業家がより良き決定を下すには、実体を明確に把握した上で、将来の変化を正確に予測することが重要であるが、それを可能にするのは、その人の知性、感性に加えて徳性、倫理、道徳心、いわゆるその人の人柄ではなかろうか。これを磨くことを怠ってはならないと思っている。

その意味で私の座右の銘としている「福沢諭吉の処生訓」をここに記して、ご参考になれば幸いである。

福沢諭吉の処生訓

一人間として一番楽しく立派なことは、一生を貫く仕事をもつことである。

二人間として一番みじめなことは、教養のないことである。

三人間として一番淋しいことは、する仕事のないことである。

四人間として一番醜いことは、他人の生活を羨ましがることである。

五人間として一番尊いことは、人のために奉仕して、決して恩にきせないことである。

六人間として一番美しいことは、すべてのものに愛情をもつことである。

七人間として一番悲しいことは、嘘をつくことである。

八人間として一番素晴らしいことは、常に感謝の念を忘れないことである。

高等教育機関の設置運動を展開

青年部が走る

我が町我がビジョン　活性化への一役を担う

足利商工会議所 青年部

(文・副部長　斎藤 茂夫)

昭和五十六年十月、足利商工会議所青年部が設立された。その目的は青年経営者の人格教養と経営能力を高め、足利市商工業の振興と商工会議所事業活動に寄与すること。当初基盤確立のため企画総務、会務、事業、経営、商工振興、特別委員会の六委員会が設置され、私は特別委員会の委員長として「足利の将来について考える」をテーマに市内外の方々を講師に迎え勉強会、研究会を開催して来た。まちの活性化を図るには数多くの切口があり、単一の切口では達成できない。足利の活性化には産業の振興、都市基盤の整備拡充、社会福祉の充実、住宅整備などいろいろな要因が考えられる。

そこで当委員会では日本最古の学校、「足利学校」を有するこの地において「特色ある高等教育機関の設置」を図り、若年層の定着や地域の若手後継者の育成等を推進していくことが望ましく、それが活性化につながるものと結論した。

四千人対象にアンケート調査

我が町足利は関東平野の尽きるところ栃木県の西南端に位置し、市の中央を渡良瀬の清流が流れ北を足尾山系が連なり、南は関東平野につづく。人口十六万八千余。世帯数五万五百。面積百七十七平方キロ。室町幕府の開基、足利氏発祥の地でもある。奈良時代以前から織物を中心にして栄えてきたまち。足利学校、ばん阿寺、行道山等々、古い歴史や文化が美しい自然環境のなかに今も生きづいている。そんなまちである。

現在は就業構造からみると、第二次産業が五一%を占め、工業化の程度が高いが、従業員数二十人未満の小規模企業が九四%を占めるという典型的な小規模企業の都市である。また、繊維のまちといわれているが、産業分類別構成では繊維工業が全体の四〇%、衣服その他の繊維製品製造業が一五%で繊維産業全体では工業事業所数の五五%を占めるが、製造品出荷額では二二%と減少傾向にある。繊維産業都市から総合産業都市へと移行しつつあるのが現状。

私たち青年部は昨年足利市から「第四次足利市振興計画」が発表されるや、これの勉強会を開いた。この第四次振興計画は計画期間を昭和七十五年(西歴二千年)までの十五年とし、「二千年の足利」に向けた将来目標や目的達成のための施策の大綱を明らかにしているもので、五つの指針をもとに基本構想、基本計画が策定されている。

①、市民文化の高揚と人づくり(市民文化の高揚と創造性に富む心豊かな人づくりのために)②、活力ある地域産業の振興(豊かでいきいきとした産業社会を築くために)③、福祉、高齢化社会への対応(健康で生きがいのある福祉社会を築くために)④、魅力ある都市環境の創出(安全、快適で個性に富む住みよいまちづくりのために)

しかしながら足利の活性化を考えた場合、人口問題をまず考える必要があると思われる。そして私たちは昭和五十七年四月、都市問題研究委員会と名称を改め「特色ある高等教育機関の設置」による若者があふれるまちづくりにテーマをしぼり研究することになった。青年部として今やるべきもの、二十一世紀への遺産となるものと確信したからである。

まず昭和五十九年より、八王子の中央大学、高崎の高崎経済大学、地元足利工業大学、足利学園(白鴎大学)、西那須野町のアニア学院などを訪問。「地域と学校」「教育と学校経営」等のかかわりについて勉強。そして昭和六十年、足利の人達がこの高等教育機関の設置についてどのように考えているのか、そして今後どう私たちが進展させていくべきかの判断材料にすべく中学生、高校生及びその保護者、一般市民等四千百名を対象に「高等教育機関の設置、中高生の進路、足利のまちづくり等」についてのアンケート調査を実施、三千二百十八名の回答を得るさとができた。その結果を小冊子にまとめた。その結果は――――。

足利青年部は「わたしのまち」報告書を作成、市長と懇談した

◎将来の進路

保護者、市民では子供を「大学へ進学させたい」が六六%、「専門学校へ行かせたい」が一六%。特に男性は七二%が「大学へ進学させたい」と考えている。高校生は、「大学へ進学する」が七六%である。専門学校を含めると八八%が高等教育機関への進学を希望している。中学生は「高校へ進学する」が九二%、高校卒業後の進路では「大学へ進学する」が三八%、「専門学校へ行く」が一六%と、全般的に進学意識は高いことがわかる。保護者、市民では子供に大学で勉強させたい分野は、男女共文化系が半数以上だが、学部別に見ると、工学部への希望が最も高い。保護者、市民では子供に進学させたい大学は、国公立四年制大学が五八%、私立四年制大学は一五%。それに対し高校生が進学したい大学は男子が国公立四年制大学が五七%、私立四年制大学が五四%。女子では国公立四年制大学が二三%、私立四年・短大が五五%と、私立の人気が高い。また保護者、市民では子供に進学させたい大学は、「自宅から通える所が望ましい」が六二%に対し、高校生五一%、中学生七四%が「自宅から通える所」と考えているが、高校生男子は五四%が「親元を離れてひとりで生活したい」と、自立心の強さを見せている。

◎将来の就職

保護者、市民では就職については「自宅から通える所」への望む声が八七%と多く、高校生は五〇%が「自宅から通える所に就職したい」と考えているが、大都市への就職希望も四五%おり、特に男子は五二%が大都市志向になっている。しかし、大都市希望の半数は、その理由を「足利近辺には自分が希望するような適当な職場がないから」と答えており、足利地域の産業活性化が図れれば地元への就職希望者も相当多くなるのではないかと判断できる。

◎新たな大学の設置

保護者、市的では「足利に新たに大学を設置してほしい」が七三%、高校生五五%、中学生五〇%が望んでいる。その理由としては「自宅から通学できる」と同時に「若者が集まってまちが活気づく」、「地域商工業の発展に役立つ」というものが多い。また大学ができた場合、保護者、市民が期待することは「働く人々が新しい知識や技術を得るため、一定期間学べるようにする」が二〇%、「学校の施設を市民にも利用できるようにする」が一八%、「市民への公開講座」が一八%と地域の人々が参加できるような地域に根ざした大学を望んでいることがわかる。また講演会や文化セミナー又は市民公開講座などに参加してみたいと考える保護者、市民が八七%、高校生でも五一%が考えており、大学へ期待するものは極めて大きいものがあることがわかる。

◎足利の将来像

若者が足利を出ることなくこの地に残るための手段としては、保護者、市民は「働く場所が多く、希望の職業につけること」が二七%。将来の足利については保護者、市民は「文化施設や高校、大学などの教育機関が整備された文教都市」が二九%、「問屋団地や工業団地を中心とした産業の活発な産業都市」が二六%。高校生、中学生は「デパートや専門店などのショッピング施設が充実した商業都市」がトップとなっている。商工業の発展と同時に文化、教育面の整備された調和のとれた都市像を足利の未来に望んでいる。

以上が調査の結果である。

私たちはこれをもとに市長との懇談をもち、高等教育機関の設置を要望したのである。

近隣都市においても大学等の誘致問題では連日マスコミをにぎわしているが、昨年にはアメリカの大学の日本分校の話しがもちあがり、私たちもアメリカの大学教授との話し合いをもったりした。実現に向けては財政的な問題も含めいろいろな問題があり、ひとつの隘路に入ってしまったことも事実である。私たちのできることは何なのか。新たな活動の突破口を懸命に模索している。それが私たちの任務と自覚しているから。

若きオーナー

円高の今、活路を求めて

私たちが模索する 大野メード開発

稲山織物株式会社

専務取締役　稲山 幹夫

(大野商工会議所青年部)

新緑の去る五月十八日、我が青年部が主管し六呂師高原「六呂師ハイランドホテル」において、福井県商工会議所青年部連合会の第四回会員大会が開催され、その席上、「地域活性化に向けて」と題して、大野織物工業協同組合の明石久治常務理事の講演に引き続いて、厚顔にも私が事例発表をさせていただきましたが、その内容を少し全国の皆様にも紹介させていただきます。

我が社(稲山織物)は昭和七年の創業。これまでに、絹ベンベルグからナイロン、ポリエステルと素材を変えながら、撚糸、仮撚、サイジング等の糸加工部門と織布部門を手掛けてきた。戦後九回目、三年越しといわれる繊維不況の中で合繊メーカーや商社のいわれる工賃で織らざるを得ない環境に反発し、わずかでも、一部でもよいから、自らの手で価格を決めることのできる「物づくり」へと昨年初め、稲山織物(織布)のほか系列のティック(ニット)、ニイナ(縫製)、亀城テキスタイル(織布)の稲山グループ四社間に新商品開発委員会を設け研究を進めてきた。

四社の持つ技術力を結集し、原材料から最終製品まで一貫生産・販売できる商品づくりがテーマだった。そして、まず第一に商品化されたのが、高齢化社会に対応した大人用おむつカバーである。ソフトパンダのブランド(出願中)で、昨年九月に売り出した大人用おむつカバーは、稲山織物の撥水透湿・水をはじき湿気は通す)素材や、ティックの暖かく通気性のあるコットンニットやメッシュを使い、ニイナが縫製を担当するという異工程交流をグループ内で実現させた。病院や施設ごとの細かく、かつ少量の注文、改善要望にも、各工程を直結させた一貫生産システムを持つ産地企業の強みを生かして素早く対応し、徐々に信頼を得始めていると確信している。

このほか、ティック、ニイナが取り組んできたスポーツウェアの分野でも、チーム(十人以上)単位なら表地の素材(織物でもニットでも)、色からネームの刺繍、裏地の選択まで細かい注文に応じる体制を整え、トレーナー、ウィンドブレーカー、ゴルフジャンパーなどに人気が出始めてきた。

我が社では、さらにきめの細かいサービスを提供できる新商品開発を目指して、ひとつひとつ努力していきたいと考えております。

委員会報告

単会名・役員呼称等を検討
● 総務委員会 ●

今年度商青連の総務委員会は、八月二日山口県で開催した委員会で、三回開催しました。今年度より新しく委員会細則が制定され、総務委員会が設置されました。その細則の第二条において、総務委員会は財産強化等全般に関する事項を審議する、となっています。

このような中で当総務委員会では、足利の西田、浦河の奥田両副委員長をはじめ八人の委員で構成され、その職務遂行に頑張っています。

なにせ委員諸君、全国からの出身ということで、委員会開催は、役員会開催日に合わせて開催していますが、少ない回数を中味の濃さで補っています。

（委員長　神田博一）

来年二月に中央研修会を開催
● 研修委員会 ●

今年度より委員会制により商青連活動が行われるようになりました。当研修委員会は会員の資質の向上が行われるようなプログラムになるべく委員会活動を行っています。

今年度の委員会基本項目は次の三点です。

①アメリカ・カナダ研修視察団の企画運営とその報告書の作成

②中央研修会の企画運営

③その他会員のためになるプログラムの作成

①のアメリカ・カナダ研修視察団については、その視察団の本部長として研修委員長があたり、副本部長には研修委員会の副委員長である馬宮君にお願いいたしました。

六月四日より十五日までの十二日間、これを無事にそして目的を大いに達成して帰国いたしました。本部長、副本部長の息の合ったところを団員の方に見ていただき、また、協力をいただいたことが、好結果を生んだものと深く感謝いたします。

また、その報告書の作成については、事前にお願いしていましたカメラマンの絶大なる協力ですばらしい写真を提供いただきました。レポートについても同様。研修が終わると、その日のうちに夜遅くまでレポートの作成をいただき、帰国後、研修委員会全員で報告書を作成しました。

メンバーは、遠く離れているため、もっぱら電話と郵便で対応し、全員の力の結集ですばらしいものが出来上がろうとしています。

②の中央研修会については六十三年二月八日～九日に日時が決まっていますので、その内容をいかにすべきか、検討を重ねています。せっかく東京まで来ていただくのですから、今後の各地青年部の活動のよきお手伝いができるような内容にしたい、このような研修委員会の活動を今年度中やっていく予定です。

（委員長　竹林武一）

青年部設置・商青連加入を促進
● 組織強化委員会 ●

六十二年度から委員会組織が構成され、組織強化委員会は九名のメンバーでスタートしました。

ブロック別青年部設置状況

①は商工会議所数　②は青年部設置数

ブロック	①	②	設置率(%)
北海道	40	9	22.5
東北	42	31	73.8
北陸信越	49	29	59.2
関東	92	59	64.1
東海	43	17	39.5
近畿	67	41	61.2
中国	50	30	60.0
四国	29	24	82.8
九州	76	44	57.9
計	488	284	58.2

（62年8月3日現在）

まず事業計画として、三点事業目標に取組みました。

最初にブロック別運営研究会及び部会長会議の開催ということで、原点をみなおし、二十一世紀へ翔く青年部」という分科会の統一テーマを決め、各地のブロック運営研究の分科会で勉強していただいたと思います。

次に各地の青年部のみなさんに、部会長会議を開催していただいているわけですが、組織強化委員会では、部会長会議の充実ある内容の中で開催していただくために、『ブロック別商工会議所青年部部会長会議開催要項』を作成しました。ブロックのみなさんのところに、開催要項が届きますので活用していただき、意義ある部会長会議の運営にしていただきたいと思います。

単位会議所青年部の結成促進と商青連への加入促進状況は、現在、全国四八八商工会議所中、二八四会議所に青年部が設置され、商青連加入青年部は二〇一であります。青年部設置については、商工会議所、各地の青年部のみなさんの協力をいただき、年々増加状況にありますが、当委員会としては、今後尚、みなさんの協力をいただき、設置促進、商青連加入を働き掛けていきたいと考えています。

（委員長　池増　徹）

親しまれる紙面づくりを
● 広報委員会 ●

本委員会は八名で構成し、会報の紙面の充実、読みやすい会報づくりを基本として、次の三点を今年度の主たる事業として取り組んでいます。

①商青連の機関紙「翔生」の発行。タブロイド判八ページとし、発行日は十月二日と三月二日の年二回を予定。

②日商の機関紙「石垣」の原稿依頼について。青年部欄に毎月青年部会員の原稿掲載。

③青年部広報担当者研修会の開催。十月五・六日の一泊二日にて、静岡県熱海市において定員三千名として開催を予定。一日目は、新しい時代に対応した広報活動について、二日目は、新聞型会報の初級実務。

本委員会としては、機関紙「翔生」を心のよりどころとしておられる皆さまを念頭に、この責務の重大さをひしひしと感じながら鋭意精励中でありますので、ぜひご協力とご支援をくださいますようお願いいたします。

（委員長　萩原幸昭）

編集後記

夏の球児の祭典で甲子園が湧いていた頃、北海道の炭鉱の町は開山に揺れていた。南の沖縄では国体の開催で最後の仕上げに入った。その頃、本紙の編集も追い込みに入った。慣れない編集作業に四苦八苦。読みやすい紙面、充実した紙面にチャレンジしたものの、思うに任せず空を仰ぐ始末。が、全国の同志からの多くの寄稿に励まされ、どうにか校了まで漕ぎ着けました。紙面から全国各地の青年部の活躍をくみとっていただければありがたい。

編集の不慣れで、いただいた原稿のうち、一部を掲載できず、次号回しとなりましたことを、執筆者にお詫び申しあげます。次号は来年三月。同志の活躍ぶりをニュースにしたいと考えています（萩）。

女性オーナー いんたびゅー

クリエイティブ・ヨーコ社長

伊藤　洋子さん（長野県）

夢いっぱいのコスモ（宇宙）私たちが創ります

社名を聞いただけでは、何の会社か首をかしげる。いわゆる観光地みやげの従来のイメージを払拭し、メルヘン調で夢いっぱいの商品を企画開発し、今、全国の観光地で売れに売れている。関連会社を含めて年商三十八億、三年後に店頭上場をめざしている。

――次々にヒット商品を生みだし、急成長されていますが、その要因は何でしょう。

伊藤　まずリゾートグッズという、いままでにないジャンルを開発し、すべてに挑戦してきた事。それとあまり勉強してプロにならずに、アマチュアに徹して消費者に近く、わがままであったため、動揺なく「自分の発するものは必ずあたる」と決断できました。私は、商品企画には、「はずれてもともと」「あてることよりバットを振ることが一番」と指導しています。ホームランばかりねらうと、バットが振れません。

人材の面では、出合ったひとに期待をしてきました。社員全員持株制をとり、全員が経営者の意識をもつようにもとめています。そのことが企業の中で、指示せずとも動く、モラルの高い、すなわち倫理指数の高い集団を創っています。

財務・経理の面では、専務（夫君の俊二氏）が、ガッチリ握っていまして効率上をめざしています。このコンビが良かったと思います。

――最近、貴社の類似コピー品が出回っていると聞きますが。

伊藤　いいもの、売れるものは必ずコピーされます。コピーされるような商品を創らねばなりません。

――社員の採用、勤務形態に独自の方式があるそうですね。

伊藤　採用については、学部を問わず、本人が当社でやりたいことの意思を尊重するよう、面接を重視しています。また、リクルート社のTI型（適性テスト）や血液型、星座（生年月日）により、本人をできるだけ理解するよう努力しています。我々も選ぶが、本人も当社を選ぶべきだと考えます。

勤務については、まず、目的のために、時間を有効に使用するためフレックスタイムを採用しています。在宅勤務も可能です。また、時間・場所を越えて勤務できるようにし、年二回社長面談を行ない、適性配置、自己啓発、年収等について確認しています。

――リゾート産業の将来と貴社の今後の発展の方向に、どのような展望をおもちでしょう。

伊藤　リゾート産業は、二十一世紀のトップ産業になると確信しています。このすばらしい自然にめぐまれた信州から発した我々の仕事＝クリエイションは、それを思う気持＝THE HOTTEST HEART（ジ・ホッテスト・ハート）により、リゾートをリードできると思うからです。

リゾートのアイディンティティー＝R1の創出、イメージのデザインメーク、リゾートにおける商業創出、リゾートのライフスタイルの提案等〝リゾートのマジシャン〟と呼ばれる存在となり、御奉仕することが、私を育ててくれたリゾートへの恩がえしだと思います。

――企業の経営者として、女性であるが故の得失はございますか。

伊藤　プラス面として、女性の経営者としては、ニーズに対して競争者が少なかった。社会に対しての甘え、「どうせ女だから」があり、それが男の方より私を楽してくれました。またこの仕事について女の感性、ソフト面が活用しやすかったですね。

マイナス面は、接待、出張等で、主人（専務）以外とは行動できない体質になってしまいまして、行動範囲がごく狭く、情報源が少なくなります。また「どうせ女だから」と、偏見のある方（銀行等）との交流は、全く無理でした、私の方から御遠慮しました。トラブルが見えているから。

――企業経営と家庭生活の両立に障害はありますか。

伊藤　両立はできません。家庭で必要な時は、それを優先させますが、そういう時は少ないですね。家庭人として、能力がないのでしょうか（笑）。

――商工会議所青年部には、女性会員もおりますが、女性オーナーとして御活躍されている立場から、企業経営に携わる女性に助言と激励をいただけますでしょうか。

伊藤　自分の得意な分野を伸ばすべきです。不得手なことは男の方にまかせて。やはり仕事には女は向いていないのですから。又、女の私達に今、求められているのは、男の方にできない発想（ニーズの発信）だと思うので、わがままであるべきです。何げない発想、思いつきでも、いま、なら全てあたります。そして、家にあっては、すべてができすぎる母よりも、少々ぬけたかわいい女であろうとした方が楽ですね。「自分がしたいことをするために自分を律することが一番」だそうですが、難かしいですね。

――どうもありがとうございました。

彼女のプロフィール

昭和二十六年、兵庫県姫路市生まれ。阪大薬学部卒業後、人間科学部へ学士入学。長野県斑尾高原でのペンション経営のため五十二年に中退。翌年、同高原でリゾートみやげ屋（小売り）「マザーグース」とリゾートホテル「ラフオーレ・シャンピア」を創設。五十六年、リゾート商品の企画・開発と卸問屋の「クリエイティブ・ヨーコ」、五十八年にはブティックチェーン「マザーグース・ファミリー」を開設。内三社の社長を務める。五十九年、二十一世紀型リゾート開発研究所を設立し、所長を務める。

また現在、二十一世紀長野県産業構造研究会委員、長野市テクノカルチャーゾーン開発懇話会委員等で活躍している。